

実施学科課程表(17生以降)

社会イノベーション学科

(令和5年度)

分野	授業科目	単位	開講年	実施時期	学科 基盤 科目	副専門科目			レベル	担当者	教員免許 該当科目	グローバル 科目	シラバス
						経済	経営 システム	地域 システム					
イノベーションと経営分野	アントレプレナーシップ入門	2	5	前					基礎	河野・渡邊・松隈・仲本			1
	大分のものづくりと地域づくり	2	5	後					基礎	河野・渡邊			2
	製品開発論	2	5	後	○	○	○	○	中級	仲本			3
	市場開発論	2	5	後			○		中級	松隈			4
	組織革新論	2	5	後			○	○	中級	本谷			5
	研究開発マネジメント論Ⅰ	2	5	前	○				中級	河野			6
	ベンチャー起業論	2	5	前	○		○	○	中級	渡邊			7
	金融イノベーション論	2	5	後		○	○			(非)鵜崎			8
	イノベーション戦略論	2	6*	前					応用	仲本			
	研究開発マネジメント論Ⅱ	2	6*	後					応用	河野			
	ベンチャー実践論	2	5	後					応用	渡邊			9
	ビジネスモデル論	2	5*	後					応用	松岡			10
	ブランド論	2	5*	後					応用	松隈			11
イノベーションと社会分野	社会調査法	2	5	後		○	○	○	中級	中本			12
	イノベーション社会論	2	5	前				○	中級	豊島			13
	現代社会分析論	2	5	後				○	中級	豊島			14
	イノベーション科学技術論	2	5	後					中級	渡邊			15
	ソーシャルイノベーション論	2	5*	前					応用	豊島			16
	NPO・NGO論	2	不開講						応用	未定			
	技術革新論	2	不開講						応用	未定			
	知的財産論	2	5	後					応用	非(野田)			17
イノベーションと経済分野	進化経済学Ⅰ	2	5	前		○			中級	下田			18
	ゲーム理論	2	5	後	○	○			中級	未定			19
	イノベーションの経済学	2	5	前	○	○			中級	田村・下田			20
	イノベーション学説史	2	5	後					中級	田村			21
	制度の経済学Ⅰ	2	5	前		○			中級	田村			22
	R&Dの経済学	2	不開講						中級				
	都市イノベーション論	2	不開講						中級				
	進化経済学Ⅱ	2	6*	後					応用				
	制度の経済学Ⅱ	2	6*	後					応用	田村			
	組織と情報の経済学	2	不開講						応用				
	商取引の経済学	2	不開講						応用				

※開講年に「*」のある科目は隔年開講の予定である。

※上記「副専門科目」に○がついている学科の学生にとって、左の科目が副専門科目となる。

社会イノベーション学科の学生が経済学科の副専門科目を履修したい場合は、経済学科の実施学科課程表を参照し、社会イノベーション学科の下に○がついている科目を履修すること。

※担当者欄の(非)は非常勤講師である。

※グローバル科目欄に「○」のある科目は、国際フロンティア教育プログラム・グローバル科目であるため、全て英語による授業を行う。詳細は、教養教育科目ガイドブックを参照すること。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K441S401		アントレプレナーシップ入門(Introduction to Entrepreneurship)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1,2,3,4	経済	前期	月4	氏名 河野 憲詞・渡邊 博子										
						E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp, watanabe-hr@oita-u.ac.jp, himatsu@oita-u.ac.jp,										
授業の概要	起業家がイノベーションを実現するための思考及び行動様式について学びます。グループワークを中心としてアントレプレナーシップの基礎概念を学ぶと同時にいくつかのケーススタディを行います。それらをふまえて起業をイメージしたプランの作成に取り組んでもらいます。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	アントレプレナーシップの基本的な考え方を理解して、主体的かつ具体的に説明できる。						○									
目標2	社会の変化とイノベーションが深く関わっていることを理解して、説明できる。								○							
目標3	ビジネスプランを策定して発表できる。										○					
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	オリエンテーション アントレプレナーシップの意義															
2	グループワーク1 コア・コンピタンスの発見(価値分析、リーダーシップなど)															
3	グループワーク1 コア・コンピタンスの発見(価値分析、リーダーシップなど)															
4	グループワーク1 コア・コンピタンスの発見(価値分析、リーダーシップなど)															
5	グループワーク1 コア・コンピタンスの発見(価値分析、リーダーシップなど)															
6	グループワーク2 ビジネスプランの策定(ビジネスプランシート、事業計画など)															
7	グループワーク2 ビジネスプランの策定(ビジネスプランシート、事業計画など)															
8	グループワーク2 ビジネスプランの策定(ビジネスプランシート、事業計画など)															
9	グループワーク2 ビジネスプランの策定(ビジネスプランシート、事業計画など)															
10	グループワーク3 フレームワークの理解(PEST、AIDMA、3C、4P、5Fなど)															
11	グループワーク3 フレームワークの理解(PEST、AIDMA、3C、4P、5Fなど)															
12	グループワーク3 フレームワークの理解(PEST、AIDMA、3C、4P、5Fなど)															
13	グループワーク3 フレームワークの理解(PEST、AIDMA、3C、4P、5Fなど)															
14	プラン発表															
15	講評と総括															
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	○	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。					工夫その他の	毎回の授業に関するコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答え、他の学生から学び機会を設けます。							
	B:意見の表現・交換	○	・演習や個人／グループでのワークを取り入れて、知識の体得と他の学生から学ぶ機会を設けます。													
	C:応用志向	○														
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	「アントレプレナーシップ」「起業」「イノベーション」といった言葉を念頭にのいて日頃から新聞や雑誌、インターネットなどで政治、経済、経営、社会、技術、文化に関する記事をよく読んでおくこと。(事前学習30時間)														
	事後学修	授業で得た学びに基づいて日常生活の中でアントレプレナーシップの実践事例を見つけて理解する。アントレプレナーシップを発揮できる場面やテーマをみつけて実践してみる。(事後学習15時間)														
教科書	教科書は指定しません。スライドや配布するプリントで進めます。															
参考書	関西ベンチャー学会編(2005)『ベンチャー・ハンドブック』ミネルヴァ書房 本田宗一郎(2001)『夢を力に』日経ビジネス人文庫 その他、必要に応じて授業中に指定します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	平常点	40%	○	○												
	レポート、発表	40%	○	○	○											
	学期末試験	20%	○													
注意事項	グループで作業したり、授業中に意見を求めることがあります。時間外学習を活用して授業を有意義な時間にしてください。															
備考	2017年度以降の入学生のみ受講可能です。															
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	河野憲嗣（企業経営者、全国銀行協会、人事担当）、渡邊博子（シンクタンク研究員等）
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスのリアルな事例を用いて、シンクタンクや金融サービスの視点からアントレプレナーシップについて解説します。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K441S402		大分ものづくりと地域づくり(Manufacturing and Community in Oita)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1,2,3,4	経済	後期	水5	氏名 河野 憲嗣・渡邊 博子 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp,watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7679(河野)・7702(渡										
授業の概要	さまざまな分野の外部講師によるオムニバス形式の講義です。大分で優れた商品・サービスを提供している企業経営者がものづくりの実践やイノベーションの事例を説明します。また行政やNPOに関わる人や大分にゆかりのある人が大分での成功例や今後の活性化に向けた考え方を話します。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	大分に関連した「ものづくり」および「地域づくり」の現状と課題を理解し、説明できる。									○						
目標2	経験知・実践知を通じて社会として取り組むべき課題の存在や地域によるイノベーションの重要性を理解するし、説明できる。							○								
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	ガイダンス															
2	食品															
3	農業															
4	工芸品															
5	製造業															
6	小売店															
7	観光															
8	中間まとめ															
9	マスコミ															
10	地域、商店街															
11	NPO、ボランティア															
12	教育															
13	金融															
14	行政(県庁、市役所など)															
15	総括とまとめ(順番や内容は、変更することがあります)															
ライクニテイング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○	・講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。 ・講義で学んだことをレポートなど成果物にしてもらうことで、学びの定着化を図ります。				工夫その他の	毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。 コメントシートを通じて授業野中で対応できなかった質問や感想に答えます。								
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	講義予定の講師に関する情報について図書館やインターネットで事前に概要を調べておくこと。 講師への質問を1つ以上準備しておくこと。(事前学習30時間)														
	事後学修	講義を聞いた上で、あらためて講師に関する情報を調べてレポートを作成することで学びを深めること。(事後学習15時間)														
教科書	各講師が必要に応じて指定します。															
参考書	各講師が必要に応じて指定します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	レポート		70%	○	○											
	試験		30%	○	○											
注意事項	社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。現実の社会で起きていることを知り、大分についての理解を深めながらいま暮らしている地域のことや社会全体への関心を広げてください。															
備考	授業の内容や順番は講師の都合により変更する場合があります。 2017年度以降の入学生のみ受講可能です。															
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	河野憲嗣（企業経営者、全国銀行協会、人事担当），渡邊博子（シンクタンク研究員等）
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	企業経営者、人事担当者、営業担当者
実務経験を いかした教 育内容	企業等における経営や実務の経験を通じて、現実の社会で求められる知識や考え方の習得を促進します。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式										
K432S301		製品開発論(Strategic Management for Product Development)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	2,3,4	経済学部	後期	金3	氏名 仲本 大輔												
							E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714												
授業の概要		本講義は製品やサービスの開発に関わる様々なテーマを経営戦略論の観点から探っていきます。企業が存続し成長していくための方法の1つとして新製品や新サービスの開発がありますが、そのためには企業はいかなる経営戦略を策定し、組織を動かしているか、を理解することをねらいとします。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		企業の新規事業開発のあり方（新製品・新サービスの開発プロセス）について自らの視点で分析・考察できるようになる。																	
目標2		企業の多角化戦略のあり方について自らの視点で分析・考察できるようになる。																	
目標3		イノベーションと企業経営との関係について自らの視点で分析・考察できるようになる。																	
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		ガイダンス																	
2		経営戦略論の復習																	
3		市場地位別の戦略																	
4		企業の多角化戦略①																	
5		企業の多角化戦略②																	
6		企業の新規事業開発																	
7		社内ベンチャー①																	
8		社内ベンチャー②																	
9		社内ベンチャー③																	
10		イノベーションと企業の経営戦略①																	
11		イノベーションと企業の経営戦略②																	
12		イノベーションと企業の経営戦略③																	
13		製品アーキテクチャ論①																	
14		製品アーキテクチャ論②																	
15		業界標準をめぐる企業の経営戦略																	
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ		A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、企業経営に関連する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。					工夫 その他										
時間外学習の内容と時間の目安		準備 学修 事後 学修 興味を持っている企業、業界に関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください（各回1h,計15h）。 講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください（各回2h,計30h）。																	
教科書		開講時に指示します。																	
参考書		・大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略[第3版]』有斐閣。 ・周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔（2009）『経営学1』『経営学2』実教出版。 他にも適宜紹介します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験					90%													
	小レポート					10%													
講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を1回設けます。そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらいます。																			
注意事項		レジメ等を綴じるためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。																	
備考		経営戦略論を受講してから受講するのがのぞましいです。																	
リンク																			
		URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		市場開発論(Market Development Theory)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面									
K442S401																		
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	2,3,4	経済	後期	木2	氏名 松隈 久昭											
							E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680											
授業の概要	市場開発に関する理論と実践を学習し、市場開発の基本的理解を踏まえ、新たな市場を創造する際の課題を分析する基礎的能力を習得する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	市場開発を行うための基本的な方法を習得すること。																	
目標2	消費者の心理や行動を分析できるようになること。																	
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	市場開発の方法																	
2	市場開発の理論																	
3	デジタル社会のマーケティング																	
4	デジタル社会の消費者行動																	
5	ビジネスモデルの事例研究																	
6	デジタル・マーケティングの基本概念																	
7	製品戦略の事例研究1																	
8	製品戦略の事例研究2																	
9	価格戦略の事例研究1																	
10	価格戦略の事例研究2																	
11	チャンネル戦略の事例研究1																	
12	チャンネル戦略の事例研究2																	
13	プロモーションの事例研究1																	
14	プロモーションの事例研究2																	
15	まとめ																	
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		☐		テーマに関連する企業の市場開発行動を示すので、比較研究してほしい。それにより具体的な市場開発行動を理解してほしい。レポートにより知識の確認を行う。					工夫 その他の								
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。30時間。																
	事後学修	学んだ理論に合うような現代の事例を経済誌や新聞で調べる。20時間。																
教科書	未定。初回の授業時に指定する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。テキストからレポート課題を指定します。																	
参考書	コラー「マーケティング・マネジメント」プレジデント社																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	レポート					50%												
	試験					50%												
新型コロナウイルス対策のために、遠隔授業にすることがあります。また、遠隔授業の時は、評価方法と割合を変更する予定です。																		
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。出席が基準以下の場合、評価しないので注意すること。																	
備考	中級レベルの科目のため、2年生以上の履修が適切です。関連する科目は、マーケティング論、製品開発論です。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K442S402		組織革新論(Organizational Change and Innovation)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	2,3,4	経	後期	金2	氏名 本谷 るり											
							E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707											
授業の概要	経営組織論の知識や理論を習得した上で、それらを用いて「組織の革新」を考える諸理論を学び、自ら考えることがこの講義のねらいです。企業組織が継続力を持つためには革新することが大きなポイントとなります。 企業の事例を見ながら、どのような革新をいかに行うか、また次の革新につなげることを考えます。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	企業組織の革新や変革に関する理論を身につける。							○										
目標2	企業組織の継続と発展について、変革の理論を用いて説明することができる。							○	○									
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	ガイダンス、経営組織論の復習																	
2	組織のライフサイクルモデル(1)																	
3	組織のライフサイクルモデル(2)																	
4	組織と戦略のダイナミクス(1)																	
5	組織と戦略のダイナミクス(2)																	
6	組織文化の変革																	
7	組織学習(1)																	
8	組織学習(2)																	
9	前半の復習、中間試験																	
10	組織化と進化(1)																	
11	組織化と進化(2)																	
12	戦略的な組織変革(1)																	
13	戦略的な組織変革(2)																	
14	組織変革の事例(1)																	
15	組織変革の事例(2)																	
ラ イ ク ニ テ ン グ	A:知識の定着・確認	○	内容の理解、知識の習得ができたかを確認する課題を配布します。				工 夫 の 他 の											
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	経営組織論の基礎知識が必要な科目です。経営組織論に関して不足と思われる知識や理論に関わるテキストや文献を読んでから出席してください。さらに本科目に関する文献や論文も提示しますので、あらかじめ読んでおきましょう。(15~30h)																
	事後学修	授業内容を再度確認し、整理しましょう。各回で紹介する文献も参考にしてください。(15h) 配布する資料に記載されている課題に取り組みましょう。(15h)																
教科書	講義期間にわたって常に用いる教科書はありません。 授業の際に資料を配布し、参考文献の提示を行います。復習に活用してください。																	
参考書	各回の講義中に関連する文献を提示します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	中間試験 12/8予定		50%	○	○													
	期末試験		50%	○	○													
注意事項	・専門性が高いので、前期開講の経営組織論を履修しておく方がより理解が深まるでしょう。その他の経営学関連の科目も受講済みの学生さんにおすすめします。 ・私語や遅刻など他者に迷惑をかける行為は慎んでください。																	
備考	研究室はいつでもオープンにしています。質問などはいつでもどうぞ。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		研究開発マネジメント論Ⅰ (Research and Development ManagementⅠ)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		オンライン（同時双方向型、オンデマンド型）										
K432S302																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	2,3,4	経済	前期	木1	氏名 河野憲嗣												
						E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679												
授業の概要	研究開発は企業の競争力を左右する源泉として、主として製造業の領域で議論されてきました。現在はサービス業、例えばITや流通、また観光やエンターテインメントといった分野でも研究開発の重要性が注目されています。研究開発を成功裡に導くためのマネジメントの工夫について、ものづくりの事例からサービス業まで幅広く視野にしながら考察します。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	研究開発マネジメントの基本的な枠組みを理解し、説明できる。								○									
目標2	デザイン思考を使って自らのアイデアを深化させ、表現できる。									○								
目標3	ビジネスプランの策定を通じて研究開発マネジメントの重要性を体得する。										○							
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	オリエンテーション 研究開発マネジメントを考える																	
2	生産システムの基礎																	
3	業務プロセス設計																	
4	サービスマネジメント																	
5	競争力の管理																	
6	研究開発力の構築																	
7	デザイン思考1 Observation 観察する																	
8	デザイン思考2 Ideation 発想する																	
9	デザイン思考3 Visualization 具体化する																	
10	デザイン思考4 Combination 創造する																	
11	研究開発とイノベーション																	
12	プレゼンと講評1（学生による発表）																	
13	プレゼンと講評2（学生による発表）																	
14	プレゼンと講評3（学生による発表）																	
15	まとめ 思考から実践へ																	
ラ イ ク ニ テ ー グ ブ	A:知識の定着・確認		○	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。				工 夫 そ の 他 の	毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。 コメントシートを通じて授業の中で対応できなかった質問や感想に答えて、他の学生から学ぶ機会を設けます。									
	B:意見の表現・交換		○	・演習やプレゼンの機会を取り入れて、知識を体得し、他の学生から学ぶ機会を設けます。														
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修	指定した資料の読了または課題の作成（事前30時間）															
		事後学修	講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など（事後15時間）															
教科書		教科書は指定しません。 授業はスライドを使って進めます。																
参考書		藤本隆弘（2001）『生産マネジメント入門Ⅰ』『生産マネジメント入門ⅡⅠ』日本経済新聞出版社																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	平常点					20%	○	○	○									
	レポート					30%		○	○									
	プレゼンテーション					30%		○	○									
	期末試験					20%	○	○										
注意事項	授業中に意見を求めることがあります。 予習復習を励行することで授業を有意義な時間にしてください。																	
備考	地域創生教育科目																	
リンク	個人ホームページ URL https://kenjikouno.jimdo.com/																	

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスのリアルな動向と金融サービスの実務に関する視点から、研究開発マネジメントについて解説します。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		ベンチャー起業論(Venture Entrepreneurship Theory)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面										
K442S403																			
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	2,3,4	経済	前期	木4	氏名 渡邊 博子												
							E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702												
授業の概要	本授業では、ベンチャー企業の定義や概念を知り、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化について把握します。そのうえで、企業の創出にかかわるアントレプレナーシップ、企業の成長や経営の取り組みにかかわるイノベーションなどの歴史や本質についての理解も深めていきます。また、日米におけるベンチャー企業の動向を知るとともに、ベンチャーを起業する際のビジネス的側面であるヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源の活用仕方、起業のための条件や手法を具体的に考察していきます。さらに、ベンチャー企業の事例をふまえたうえで、今後のベンチャー企業のあり方を考え、自ら起業する可能性がある場合は、その態勢をとっていききたいと思います。実際にアイデアの創出を繰り返すとともに、適宜、事例をあげながら、特に地元大分のベンチャー企業の創出、成長や発展、課題などについても詳しく取り上げていきます。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	一国経済の中でイノベーションやアントレプレナーシップの必要性と重要性を理解する。								○										
目標2	ベンチャー起業のビジネス的側面を具体的に把握し、起業に対する多くの知識を修得する。								○										
目標3	ベンチャー企業のこれからのあり方について考える。									○	○								
目標4	アイデアの創出を繰り返す。								○	○	○								
目標5	自ら起業する可能性がある場合は、その準備をする。										○	○	○						
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 ベンチャー企業の定義と歴史、ベンチャー企業を取り巻く経済・産業・社会																			
2 イノベーションの概念と重要性																			
3 アントレプレナーシップと起業家像																			
4 日本およびアメリカにおけるベンチャー企業																			
5 ベンチャー起業のビジネス的側面（1）：新しい事業機会とその評価																			
6 ベンチャー起業のビジネス的側面（2）：アイデアの育成																			
7 ベンチャー起業のビジネス的側面（3）：収益の仕組み																			
8 ベンチャー起業のビジネス的側面（4）：販売や市場開拓																			
9 ベンチャー起業のビジネス的側面（5）：差別化や強み																			
10 ベンチャー起業のビジネス的側面（6）：事業計画書の作成																			
11 ベンチャー起業のビジネス的側面（7）：資金調達と資金管理																			
12 ベンチャー起業のビジネス的側面（8）：成長と目標																			
13 大分におけるベンチャー企業の事例研究（1）モノづくり分野																			
14 大分におけるベンチャー企業の事例研究（2）サービス提供分野																			
15 講義のまとめとベンチャー企業の今後の姿																			
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	事例研究、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなど。					工夫その他の	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。									
	B:意見の表現・交換		○																
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修（15時間） 興味あるベンチャー企業を取り上げ、その成り立ちや歴史、現状や今後の戦略についての調査（15時間）																
		事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解（15時間）																
教科書		忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行他『アントレプレナーシップ入門ーベンチャーの創造を学ぶ』（有斐閣ストゥディア）有斐閣、2013年。																	
参考書		・ トーマツベンチャーサポート『起業の教科書』日経BP社、2016年。 ・ 松田修一『ベンチャー企業（第4版）』（日経文庫ー経営学入門シリーズ）日本経済新聞社、2014年。 ・ 鈴木克也編集『ソーシャルベンチャーの理論と実践ー理論と実践シリーズ』エコハ出版、2011年。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	期末試験結果						60%	○	○	○	○	○							
	授業参加姿勢（アイデア創出、課題対応など）						40%	○	○	○	○	○							
上記のことをもとに総合的に評価します。																			
注意事項		自主的・主体的な態度で授業に参加してください。																	
備考		地域創生教育科目																	
リンク																			
		URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング K442S404		授業科目名(科目の英文名) 金融イノベーション論(Financial Innovation)				区分・【新主題】 / (分野) 社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		授業形式 対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	2,3,4	経済	後期	木3	氏名 鶴崎 清貴（非常勤講師）									
						E-mail kuzaki@oita-u.ac.jp 内線									
授業の概要	金融イノベーションとは、IoTやビッグデータそして人工知能といった技術革新が金融と産業のあり方を大きく変え、これまでは考えられなかったような新たな金融サービスです。金融イノベーションは、プロダクト・イノベーション、プロセス・イノベーション、ソーシャル・イノベーション、そしてセキュリティ・イノベーションの4つのイノベーションが総合し、相乗効果を生むことにより、創出されます。金融イノベーションは、金融業からのみ生まれるとは限らず、他の産業からも生まれる可能性があり、産業の垣根を越える、あるいは国境を超える競争となります。本講義では、金融イノベーションの意義と事例を明らかにするとともに、ビッグデータを解析できるRを用いてファイナンスを解説します。														
具体的な到達目標															
目標1	金融イノベーションの専門用語を理解することができる。						○								
目標2	金融イノベーションの基礎を習得し、社会で生じている経済諸問題を理解できる。									○	○	○			
目標3	企業に関わる諸問題を解決する方法を習得でき、資格取得に役立つ。								○						
目標4	企業の社会的責任の重要性を理解できる。									○					
目標5	Rの基礎を学習できる。						○								
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	イントロダクション														
2	金融イノベーションの意義														
3	銀行業における金融イノベーション														
4	保険業における金融イノベーション														
5	Rの導入と基本的操作														
6	収益率と回帰分析														
7	イールドカーブと主成分分析														
8	ポートフォリオ理論														
9	資本資産評価モデル（CAPM）														
10	金利スワップ														
11	プライシングとツリーモデル														
12	Black&Scholes 公式														
13	モンテカルロシミュレーション														
14	まとめ														
15	予備日														
ラ イ ク ニ テ ン グ	A:知識の定着・確認	○	講義中に問題を解き、知識の確認を行っています。また講義中に時事経済・経営問題を議論します。					工 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換	○	ビッグデータを分析できる高度な統計ソフトであるRの取得に努めます。												
	C:応用志向	○													
	D:知識の活用・創造	○													
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備学修	日経新聞を読むように勧めています。													
	事後学修	レポートや課題を出しています。													
教科書	大崎秀一・吉川大介（2013）『ファイナンスのためのRプログラミング』共立出版。														
参考書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Editon (Prentice Hall). 市村昭三編（1995）『財務管理論』創成社出版年。 秋山裕（2018）『Rによる計量経済』オーム社。														
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	講義中の発言		20%												
	レポート		30%												
	期末テスト		50%												
注意事項	銀行・証券業界等財務関連職種希望者および各種国家試験(証券アナリスト・公認会計士・税理士等)を受験希望の者の受講を歓迎します。														
備考	パワーポイントを用い講義を進め、講義ごとに資料を配付します。														
リンク															
	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	公認会計士事務所顧問，株式会社非常勤監査役

ナンバリング K443S403		授業科目名(科目の英文名) ベンチャー実践論(Venture Practical Theory)					区分・【新主題】/(分野) 社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		授業形式 対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	3,4	経済	後期	木3	氏名 渡邊 博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702												
授業の概要							本授業では、ベンチャー企業の定義や概念、関連するイノベーションやアントレプレナーシップ、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化などについてさらに理解を深めていきます。また、ベンチャー起業のビジネス的側面として、アイデアの育成、収益の出し方、販売促進や市場開拓、差別化や事業の強みなどを再認識したうえで、実際にビジネスプランを作成してもらいます。アイデアやテーマの選定、ビジネスモデルの構築とその事業可能性などについて考察しながら、様々な知識を用いてビジネスプランを考え、他者に説明する機会を設定します。また、ビジネスプランの実践として、実際に起業したり、アントレプレナーシップを身につけイノベーションに取り組んだり、本授業を自身のキャリアの一環として捉えてもらえるようにも実施していきたいと思います。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		イノベーションやアントレプレナーシップなどのベンチャーに関わる概念を確認し、社会と関連づける。							○										
目標2		ベンチャー起業のビジネス的側面を把握する。							○	○									
目標3		ビジネスプランの作成を通じて起業やベンチャーを考える。							○	○									
目標4		作成したビジネスプランを他者に説明する。							○	○	○								
目標5		場合によっては、作成したビジネスプランを実践する。									○	○	○	○					
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		イノベーションとアントレプレナーシップ、現代社会における起業																	
2		ベンチャー起業のビジネス的側面 (1) アイデアの育成、収益の出し方																	
3		ベンチャー起業のビジネス的側面 (2) 販売促進や市場開拓、事業戦略																	
4		ベンチャーの成長と多様なスタイル																	
5		ビジネスプランの必要性和実際																	
6		アイデアの育成やテーマの選定 (1) モノづくり分野																	
7		アイデアの育成やテーマの選定 (2) サービス提供分野																	
8		ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性 (1) モノづくり分野																	
9		ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性 (2) サービス提供分野																	
10		ビジネスプランの作成 (1) 概要や事業の内容、優位性など																	
11		ビジネスプランの作成 (2) 市場把握、顧客やユーザーの特性など																	
12		ビジネスプランの作成 (3) 資金や費用、考えられるリスクなど																	
13		作成したビジネスプランの発表 (1) 自分の発表																	
14		作成したビジネスプランの発表 (2) 他者の評価																	
15		講義のまとめ、ベンチャーや起業などのこれからのあり方																	
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、ビジネスプランの作成、プレゼンテーション、事例研究など。					工夫その他の	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。									
	B:意見の表現・交換		○																
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修 (30時間)																	
	事後学習	各テーマに関する学習の振り返りと理解 (15時間)																	
教科書		教科書は使用しません。必要に応じて関連資料等を配布します。																	
参考書		・田所雅之『起業の科学—スタートアップサイエンス—』日経BP社、2017年。 ・松重和美監修・三枝省三・竹本拓治編著『アントレプレナーシップ教科書』中央経済社、2016年。 ・川上智子・徳常泰之・長谷川伸編著『実践ビジネスプラン—事業創造の基礎力を鍛える—第2版』中央経済社、2015年。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験結果					60%	○	○	○	○	○								
	授業参加姿勢 (アイデア創出、課題対応など)					40%	○	○	○	○	○								
上記のことをもとに総合的に評価します。																			
注意事項		自主的・主体的な態度で授業に参加してください。																	
備考		前期開講科目の「ベンチャー起業論」を受講していると取り組みやすいです。																	
リンク																			
		URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		ビジネスモデル論(Analysis of Business Model)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面										
K443S404																			
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	3,4	経済学部	後期 2	木2	氏名 松岡輝美												
							E-mail matsuoka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668												
授業の概要	ビジネスモデルとは顧客と企業の双方に向けた価値創造と提供の仕組みである。ビジネスモデルの構成要素とそれらの相互関係を可視化して検討することにより評価や改良そして革新（イノベーション）に役立てることができる。各業界で特徴的なビジネスモデルをケース分析としてできるだけたくさん取り上げますので、理解を深め自分が興味がある企業のビジネスモデルの理解やビジネスモデルに沿って新たな顧客価値の提供アイデアを考えて見ましょう。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)												
目標1	専門的な用語の理解と説明ができる							○	○										
目標2	基礎的な原理を理解して説明ができる							○	○										
目標3	資料やデータの収集・加工ができる							○			○								
目標4	情報を視覚化してビジネスモデル図が書ける							○		○									
目標5	ビジネスモデルと戦略の関係を理解し説明できる。							○	○	○									
目標6	事例で取り扱った企業のビジネスモデルとビジネスモデルに沿った戦略を理解して説明ができる。							○	○	○									
目標7	ブレインストーミングによってアイデアを創出できる							○	○	○		○							
目標8	地域を活性化する視点での提案ができる							○	○	○	○	○							
目標9	持続可能な社会構築のための新たな価値づくりに対する意識を育てる							○	○	○		○							
目標10																			
授業の内容																			
1	オリエンテーション																		
2	ビジネスモデルとは何か																		
3	ビジネスモデルと戦略の関係																		
4	ビジネスモデルの社会性 経済合理性 創造性																		
5	ビジネスモデルとオペレーションプロセスの関係																		
6	イノベーションのためのビジネスモデルの効用																		
7	ビジネスモデル ケース分析 1 新たなコアバリューの創造																		
8	ビジネスモデル ケース分析 2 新たなコアバリューの創造																		
9	ビジネスモデル ケース分析 3 新たなお金の流れを作る																		
10	ビジネスモデル ケース分析 4 新たなお金の流れを作る																		
11	ビジネスモデル ケース分析 5 新たなテクノロジーを使う																		
12	ビジネスモデル ケース分析 6 新たなテクノロジーを使う																		
13	ビジネスモデル ケース分析 7 新たなステークホルダーを巻き込む																		
14	ビジネスモデル ケース分析 8 新たなステークホルダーを巻き込む																		
15	総括																		
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	学んだことを元に自分でも企業のビジネスモデルの図が書けるようになり、事業の構造と価値創造の仕組みを理解して地域や社会的に意義のある新たな価値提案を考え出す。					工夫その他の	ケース分析に使用する企業に関連する動画を時々視聴していただきます。									
	B:意見の表現・交換		○																
	C:応用志向		○																
	D:知識の活用・創造		○																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	講義で取り扱うケース分析の企業に関するネットニュースや新聞記事に目を通して理解を深めてください。聞き流さず常に重要な点をメモする(15h)																	
	事後学修	毎回の講義が終わったらノートの内容を確認して復習する。(15h)																	
教科書	近藤哲朗(2018)「ビジネスモデル2.0図鑑」KADOKAWA ユニークなビジネスモデルがたくさん掲載されています。必ずテキストを購入してください。																		
参考書	必要に応じて指示します																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	報告資料の作成						5%	○	○	○	○	○							
	自分でbusiness modelのピクト図が書けるようになる						10%	○	○	○	○								
	ディスカッションで意義ある提案が出せる						10%	○	○					○	○	○			
	現実的思考をする						5%	○			○	○							
	論理的説明ができる						10%	○	○	○	○	○	○						
	地域の活性化を意識した提案ができる						5%							○	○				
	社会的意義を意識した提案ができる						5%							○		○			
最終課題レポート							50%	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
試験はありません。最終課題はビジネスモデルの分析レポートです。																			
注意事項	遅刻や途中退室や私語で他の受講者の妨げとなります。説明を聞くだけではなく重要な点はどこかについて常に意識をしノートにメモ取るように心がけましょう。																		
備考	日常的に練習してタッチタイピングスキルを高めておきましょう。 オフィスソフト（word/excel/Power point）を使用します。																		
リンク																			
	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	シンクタンクでの講座の講師兼アドバイザー
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	株式会社チームラボ 床並展明 三菱重工株式会社 松添徹
実務経験を いかした教 育内容	設計開発に携わったDX事例についての解説

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式																
K443S405		ブランド論(Brand theory)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科																		
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																		
選択		2	3,4	経済学部	後期	月3	氏名 松隈久昭																		
		E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680																							
授業の概要	ブランド論の理論的展開を説明した後に、現代企業のブランド構築について、現状と課題を示す。具体的には、ブランド・エクイティ論、ブランド・エクスペリエンス論などの理論を説明し、企業や非営利組織のブランディングに関する事例を示す。																								
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
目標1	ブランド構築の理論と方法を学ぶこと。																								
目標2	具体的な商品について、ブランド構築を提案できること。																								
目標3																									
目標4																									
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1	ブランド論について(1)																								
2	ブランド論について(2)																								
3	ブランディングの必要性(1)																								
4	ブランディングの必要性(2)																								
5	ブランディングの理解(1)																								
6	ブランディングの理解(2)																								
7	ブランディングの設計																								
8	ブランディングの中核概念																								
9	ビジネスとブランド(1)																								
10	ビジネスとブランド(2)																								
11	ブランディングの推進																								
12	ブランディングの効果測定																								
13	知的財産・商標について(1)																								
14	知的財産・商標について(2)																								
15	まとめ																								
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	☐	レポートにより知識の確認を行う。										工夫その他の												
	B:意見の表現・交換	☐																							
	C:応用志向	☐																							
	D:知識の活用・創造	☐																							
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	テキストの内容について、事前学習を行うこと。(30時間)																							
	事後学習	学んだ理論に合うような現代の事例を経済誌や新聞で調べる。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。(20時間)																							
教科書	授業の初回に提示します。 受講する方は、必ずテキストを入手してください。																								
参考書	黒岩・水越「マーケティングをつかむ」有斐閣																								
成績評価の方法及び評価割合	評価方法																								
	レポート(クイズを含む)	50%																							
	試験	50%																							
新型コロナ対策のために、遠隔授業にすることがあります。その場合は、初回の授業時にお知らせします。また、遠隔授業の時は、評価方法と割合を変更する予定です。																									
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。 私語をしないこと。座席は指定席とします。																								
備考	新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。																								
リンク																									
	URL																								

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		社会調査法(Social Research Method)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面									
K442S405																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2,3,4	経	後期	金2	氏名 中本 裕哉											
						E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677											
授業の概要	世論調査、市場調査、アンケート調査などの社会調査に触れる機会が多い。しかしながら、そのような社会調査の方法や調査結果の解釈は必ずしも正しいとは限らない。重要なことは調査結果を公正かつ適切に解釈することである。本講義では、調査票調査を対象に社会調査の基礎的な方法論を修得する。さらに、実際に調査を行い、得られた調査データに統計分析を活用することで、問題に対する解決策を議論する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	社会調査法の基礎を修得する。																
目標2	調査データに統計分析を活用し、問題に対する解決策を議論する。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	社会調査の企画I：講義																
3	社会調査の企画II：グループ演習																
4	調査の設計I：講義																
5	調査票の設計II：グループ演習																
6	ランダムサンプリング																
7	実査I：講義																
8	実査II：グループ演習																
9	統計分析I：講義																
10	統計分析II：グループ演習																
11	調査データの分析I：講義																
12	調査データの分析II：グループ演習																
13	報告書の作成I：講義																
14	報告書の作成II：グループ演習																
15	まとめ																
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認	☐	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。				工 夫	そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換	☐															
	C:応用志向	☐															
	D:知識の活用・創造	☐															
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)															
	事後学修	授業で扱う例題、小テストで復習する。(20h)															
教科書	教科書を指定しない																
参考書	盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣、2004年、大谷信介ほか著『(第2版)社会調査へのアプローチー論理と方法』ミネルヴァ書房、2005年																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	小テスト	20%	☐														
	プレゼンテーション	10%	☐	☐													
	レポート課題	70%	☐	☐													
	小テスト、レポート課題から総合的に評価する。調査の企画、設計、実査、分析、およびプレゼンテーション、報告書の作成をグループワークで行う。																
注意事項	「統計学」を履修していると理解が深まりますが、基礎的な統計手法は本講義で修得します。受講者には、グループワークへの積極的な参加（特に、自分の考えを発信すること）を求めます。																
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K442S406		イノベーション社会論(Innovation and Society)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	火2	氏名 豊島慎一郎												
						E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708												
授業の概要	本講義では、情報通信技術(ICT)の革新に伴うコミュニケーションの変容や社会変動等の様々な社会現象を関連づけながら、社会学の観点からイノベーションの社会的・文化的な諸条件やプロセスを明らかにし、今後の政策的・実践的方策や社会システムのあり方を考える。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	「イノベーションの社会学」に関する基礎的知識や応用力を修得する。							○										
目標2	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。							○										
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 講義説明																		
2 イノベーションと現代社会																		
3 イノベーションとまちづくり1(観光まちづくりの事例)																		
4 イノベーションとまちづくり2(まちづくりNPO等の事例)																		
5 イノベーションとまちづくり3(「農村イノベーション」の事例)																		
6 イノベーションと高齢社会5(シニアSOHOの事例)																		
7 イノベーションと高齢社会6(展望と課題)																		
8 中間試験																		
9 イノベーションと災害支援1(東日本大震災等の事例)																		
10 イノベーションと災害支援2(災害支援とビッグデータの事例)																		
11 イノベーションと災害支援3(災害支援とSNSの事例)																		
12 イノベーションと災害支援4(展望と課題)																		
13 若者世代とソーシャル・イノベーション1(まちづくりの事例)																		
14 若者世代とソーシャル・イノベーション2(展望と課題)																		
15 総論																		
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	小レポートの提出を毎回課す(Moodleを使用)。				工夫	その他の	映像資料やMoodleの活用。									
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。																
	事後学習	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。																
教科書	教科書は指定しない。 講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。																	
参考書	野中郁次郎ほか, 2014, 『実践ソーシャル・イノベーション』千倉書房。 野中郁次郎編, 2021, 『共感が未来をつくる: ソーシャルイノベーションの実践知』千倉書房。 大澤健・米田誠司, 2019, 『由布院モデル: 地域特性を活かしたイノベーションによる観光戦略』学芸出版社。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	平常点(小レポート等)	50%	○	○														
	中間・期末試験	50%	○	○														
	小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。																	
注意事項	講義の進行上、スケジュールを変更する可能性がある。 履修希望者が多数である場合は、受講者制限を設ける可能性がある。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K442S407		現代社会分析論(Contemporary Socio-Analytic Studies)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	火2	氏名 豊島慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708												
授業の概要	本講義のねらいは、社会学的な視点から社会的課題の解決を目指して、現代社会における様々な現象を分析するための基礎的知識・応用力を修得することである。社会学の基礎理論および概念に関する理解を深め、それを基に現代社会を読み解いていく。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	社会学に関する基礎的知識や応用力を修得する。							○										
目標2	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。							○										
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 講義説明																		
2 社会学とは何か																		
3 社会学の基礎理論1(自我と社会化等)																		
4 社会学の基礎理論2(社会集団等)																		
5 社会学の基礎理論3(支配と権力等)																		
6 社会学の基礎理論4(官僚制等)																		
7 社会学の基礎理論5(地位と役割等)																		
8 中間試験																		
9 社会学の基礎理論6(社会的分業等)																		
10 社会学の基礎理論7(デュルケムの理論)																		
11 社会学の基礎理論8(ジンメル の理論)																		
12 社会学の基礎理論9(ヴェーバーの理論)																		
13 社会学の基礎理論10(現代社会と社会問題)																		
14 社会学の基礎理論11(市民社会と社会学)																		
15 総論																		
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	小レポートの提出を毎回課す(Moodleを使用)。				工夫	その他の	映像資料やMoodleの活用。								
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。																
	事後学習	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。																
教科書	教科書は指定しない。 講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。																	
参考書	岩本茂樹,2015,『自分を知るための社会学入門』中央公論新社. 栗田宣義,2006,『図解雑学 社会学』ナツメ社. 日本数理社会学会監修・土場学ほか編,2004,『社会を<モデル>でみるー数理社会学への招待』勁草書房.																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	平常点(小レポート等)	50%	○	○														
	中間・期末試験	50%	○	○														
	小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。																	
注意事項	講義の進行上、スケジュールを変更する可能性がある。 履修希望者が多数である場合は、受講者制限を設ける可能性がある。																	
備考																		
リンク	大分大学経済学部豊島研究室 URL http://www.ees.ec.oita-u.ac.jp/tovosima/																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K442S408		イノベーション科学技術論(Innovative on Science and Technology)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	2,3	経済	後期	月5	氏名 社会イノベーション学科長												
							E-mail 内線												
授業の概要		イノベーションの基盤となる科学技術について、実際に実現した技術例をふまえながら知的財産管理などの制度や社会との関係のあり方などの理解を深めます。特に本授業では、大分県庁と協働して県内企業をリストアップし、科学技術を活用したイノベーションに取り組んでいる県内企業の事例研究を中心に講義を進めます。より身近な事例を題材とすることで、イノベーションと科学技術の関係を学ぶとともに、将来の進路を考える際にも活用できる内容です。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		イノベーションの事例とその基盤となる科学技術の関係について、具体的に説明できる。							○		○								
目標2		イノベーションを生み出す科学技術にかかわる制度や仕組み、またそれらを取りまく社会との関係について理解し、説明できる									○	○							
目標3		大分におけるイノベーションの実践知や経験知への理解を通じて、自らの進路選択やキャリアプラン形成に活用できる。											○						
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		ガイダンス																	
2		(有) ビューティフルライフ																	
3		イジゲングループ(株)																	
4		エアロシールド(株)																	
5		鳥取大学																	
6		(有) 中村設備工業																	
7		ANAインターコンチネンタル別府リゾート&スパ																	
8		(株) ミカサ																	
9		(株) エイビス																	
10		新電力おおいた(株)																	
11		T-PLAN(株)																	
12		大分デバイステクノロジー(株)																	
13		(株) オーイーシー																	
14		(株) 大分からあげ																	
15		九州ナノテック光学(株) (順番や登壇企業は変更することがあります)																	
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ ブ		A:知識の定着・確認		○		・講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。												工 夫 そ の 他 の	
		B:意見の表現・交換		○		・講義で学んだ内容をレポートなど成果物にしてもらうことで、学びの定着化を図ります。													
		C:応用志向																	
		D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安		準備 学修		講師や関連する情報の収集、質問を考えてくる(事前学習30時間)															
		事後 学修		授業での気づきの文書化(事後学習15時間)															
教科書		・教科書は指定しません。各講師が必要に応じて指示します。																	
参考書		・各講師が必要に応じて指示します。																	
成績評価の方法及び評価割合		評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
		小レポート(毎回)					100%	○	○	○									
注意事項		社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。イノベーションと科学技術の関係についての理解を深めるとともに、自らの進路やキャリアプランを考える上で、いま暮らしている大分という地域や企業、社会全体への関心を広げてください。																	
備考		地域創生教育科目																	
リンク																			
		URL																	

教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の実務経験者	企業経営者、研究者、弁理士等
実務経験をいかした教育内容	イノベーションに関わる経営手法や地域貢献、知的財産などに関わる講義など。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
K443S406		ソーシャルイノベーション論(Social innovation and society)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3,4	経済学部	前学期	火1	氏名 豊島慎一郎											
						E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708											
授業の概要	本講義では、福祉・まちづくりNP0等によるソーシャル・ビジネスを事例として、社会学の観点からソーシャルイノベーションと社会参加について考える。講義内容の理解を深めるため、社会的課題の解決をテーマとしたグループ・ディスカッションやグループ報告も行う。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	「イノベーションの社会学」に関する専門的知識や応用力を修得する。							○									
目標2	報告や議論を通して理解を深める。								○								
目標3	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。								○								
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	オリエンテーション																
2	ソーシャルイノベーションと現代社会1																
3	ソーシャルイノベーションと現代社会2																
4	ソーシャルイノベーションと現代社会3																
5	ソーシャルイノベーションと現代社会4																
6	ソーシャルイノベーションと現代社会5																
7	ソーシャルイノベーションと現代社会6																
8	中間報告																
9	ソーシャルイノベーションと社会参加1																
10	ソーシャルイノベーションと社会参加2																
11	ソーシャルイノベーションと社会参加3																
12	ソーシャルイノベーションと社会参加4																
13	ソーシャルイノベーションと社会参加5																
14	ソーシャルイノベーションと社会参加6																
15	総論																
ラ イ ク ニ テ ニ ン グ ブ	A:知識の定着・確認	○	小レポートの提出およびグループ・ディスカッションを毎回実施する(Moodleを使用)。				工 夫 そ の 他 の	映像資料やMoodleの活用。									
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。															
	事後 学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。															
教科書	教科書は指定しない。 講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。																
参考書	野中郁次郎ほか, 2014, 『実践 ソーシャル・イノベーション』千倉書房. 野中郁次郎ほか, 2021, 『共感が未来をつくる : ソーシャルイノベーションの実践知』千倉書房.																
成績 評価 の 方法 及 び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	平常点(主体性・協調性・思考力, 小レポート)	60%	○	○	○												
	最終課題	40%	○	○	○												
注意事項	講義の進行上, スケジュールを変更する可能性がある。 「イノベーション・マネジメント入門」, 「情報社会論」, 「イノベーション社会論」, 「現代社会分析論」を履修済みか履修中であることが望ましい。																
備考	講義の運営上, 履修希望者が15名を超える場合は抽選を実施する。 履修については、下記サイト等で担当教員の研究内容をよく理解したうえで決定すること。																
リンク	大分大学経済学部豊島研究室 URL http://www.ees.ec.oita-u.ac.jp/tovosima/																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
		知的財産論(Intellectual property Theory)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面								
K443S409																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3,4	経	後期	火1	氏名 野田 佳邦（非常勤講師）											
						E-mail noda@oita-pjc.ac.jp 内線											
授業の概要	企業において技術開発に従事する者に限らず、あらゆる社会活動を行う人々にとって、知的財産に関する知識は必須となっています。産業財産権法と呼ばれる4法（特許法、実用新案法、意匠法、商標法）のみならず、情報化社会の発展により、著作権法、不正競争防止法など、実際の企業活動の実務において必要となる法律知識の重要性もますます高まっています。この授業では、知的財産関連法について幅広く対象とし、現在の企業活動において必要とされる知識と実践的能力を会得することを目的とします。講義や検索演習を通じて、単なる教科書の知識ではなく、より実践的な知識・スキルの修得を目指します。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)										
目標1	知的財産権の法体系上の位置づけ、その意味を理解できる。							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2	特許・実用新案・意匠・商標制度の概要を理解できる。																
目標3	知的財産情報の検索について理解できる。																
目標4	不正競争防止法、その他の関連法の概要を理解できる。																
目標5	著作権制度の概要を理解できる。																
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	知的財産権とは																
2	特許・実用新案制度																
3	意匠制度・デザインの保護																
4	商標制度・ブランドの保護																
5	知財情報の検索（１）J-PlatPatを用いた検索																
6	知財情報の検索（２）J-PlatPatを用いた検索																
7	不正競争防止法																
8	その他の権利やルール、復習																
9	中間試験																
10	著作権（１）著作権制度の目的、意義、全体像、著作物																
11	著作権（２）著作者、著作者人格権、																
12	著作権（３）財産権、著作権の保護期間																
13	著作権（４）著作権の制限																
14	著作権（５）著作隣接権、侵害																
15	総復習、まとめ																
ラ イ ク ニ テ ン グ	A:知識の定着・確認		D:知識の活用・創造					PCを用いた知財情報の検索演習を実施する。					工 夫 そ の 他 の				
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造	○															
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備学修	知的財産に関するニュースをチェックし、自分なりの考えを持つこと（5h）。															
	事後学修	新聞などで知的財産に関する記事をチェックし、学修した内容と照らし合わせること（10h）。															
教科書	「産業財産権標準テキスト 総合編 第5版」発明推進協会、野田佳邦「はじめての知的財産調査～創作したら調査しよう～」三恵社																
参考書	野田佳邦「ちょさく犬が答える！SNS時代の著作権」三恵社																
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	ミニレポート課題		20%														
	中間試験		40%														
	期末試験		40%														
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	特許審査官、弁理士
実務経験を いかした教 育内容	知的財産制度について講義形式で授業を行うものです。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
K442S410		進化経済学Ⅰ (Evolutionary EconomicsⅠ)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	2,3,4	経済学部	前期	木3	氏名 下田 憲雄											
							E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683											
授業の概要		経済学のモデル分析は様々な経済システムの相互作用を、相互の関係を分析することを目指している。この場合、ミクロ経済学やマクロ経済学においては、分析手段として最適化が重要な役割を果たしている。また、様々な動学理論、経済成長論や景気循環論といった時間を明示的に扱う議論もある。しかしながら、経済のシステム自体が時間の流れのなかでどのような変化をしていくのかを、またその諸システムがおかれている空間を議論するモデルはなく、こうした点に分析をすすめる分野として進化経済学が発展している。進化経済学Ⅰでは進化ゲーム理論の基礎の習得と経済学への応用などを概観する。 本授業では、進化経済学の内容を展望するものではなく、その基本的な概念や社会イノベーションとの関わりが深いものを勉強していく。よって、この授業ではその基礎を																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 経済システムの進化とは何かを理解できること、ならびにイノベーションとの関わりを理解することを目指す。									○	○								
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 イントロダクション(進化経済学の様々な論点)																		
2 進化と経済学(1)																		
3 進化と経済学(2)																		
4 進化とゲーム理論(1)																		
5 進化とゲーム理論(2)																		
6 進化とゲーム理論(3)																		
7 中間的総括1(確認テスト)																		
8 進化ゲーム理論の応用(1) 進化的安定性と倫理																		
9 進化ゲーム理論の応用(2) 進化と社会制度(1)																		
10 進化ゲーム理論の応用(3) 進化と社会制度(2)																		
11 中間的総括2(確認テスト)																		
12 進化ゲーム論と経済学(1)																		
13 進化ゲーム論と経済学(2)																		
14 進化ゲーム論と経済学(3)																		
15 イノベーションと進化経済学																		
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ ブ		A:知識の定着・確認		○		2回程度の中間的総括と小テストを実施する。小テストは講義中に30分程度を予定している。理解度が深まることを期待する。					工 夫 そ の 他 の							
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修		資料等により事前の予習を行う(30時間)														
		事後学修		課題等を通じて知識の定着をはかる(15時間)														
教科書		テキストは指定しないが、初回の講義のときに説明する。																
参考書		『進化経済学とは何か』進化経済学会編 有斐閣																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	中間レポート					30%	○											
	学期末試験					70%	○											
注意事項																		
備考		ゲーム理論、ミクロ経済学、マクロ経済の知識が必要となるので、これらの知識についても予習しておくことが望ましい。																
リンク																		
		URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式									
K432S303		ゲーム理論(Game Theory)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	2,3,4	経	後期	木2	氏名 下田 憲雄											
							E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683											
授業の概要		主に経済学の例を用いてゲーム理論の基礎を勉強します。多数の意思決定者相互の戦略的な関係を前提に、個々人がどのような行動を選択するのかを勉強します。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 相互の意思決定が影響し合う状況下での意思決定の問題を認識して、ゲームをプレーするプレイヤーがそれぞれ単独に意思決定										○								
目標2 非協力ゲームのゲームとしての状況を表現する戦略形と展開形ゲームならびに対応するゲームの解を求めることができる。										○								
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ゲーム理論とは																		
2 戦略的考え方・・・選択と意思決定																		
3 戦略ゲーム１・・・戦略的考え方と事例紹介																		
4 戦略ゲーム２・・・確率的戦略、経済学での応用事例																		
5 ナッシュ均衡１・・・再適応答とは。																		
6 ナッシュ均衡２・・・定義と計算方法																		
7 その他の均衡概念、確認テスト１																		
8 展開形表現１・・・ゲームの木																		
9 展開形表現２・・・展開形表現と戦略形表現の関係																		
10 部分ゲーム完全均衡１・・・情報完備性と展開形ゲーム																		
11 部分ゲーム完全均衡２・・・逐次手番ゲーム																		
12 情報不完備なゲーム、確認テスト２																		
13 ベイジアン均衡																		
14 完全ベイジアン均衡、確認テスト３																		
15 講義まとめ																		
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ		A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		☐ 講義内容に対応した問題を解答して提出してもらい、講義においてその解説を行う。		工夫 その 他の		事例による理解によって、理論の意味を習得する。										
時間外学習の内容と時間の目安		準備 学修		テキストや資料により予習する（30時間）														
		事後 学修		練習問題や課題の解答などにより、復習し知識の定着をはかる（15時間）														
教科書		『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ 岡田章 有斐閣																
参考書		『ゲーム理論』新版 岡田章 有斐閣																
成績評価の方法及び評価割合		評価方法				割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10		
		小テスト・レポート				30%	○	○										
		学期末試験				70%	○	○										
注意事項		理解を確認するため、確認テストを3回程度実施する。																
備考		関連科目：経済数学、統計学、経済学(I、II)、ミクロ経済学、マクロ経済学など																
リンク																		
		URL																

ナンバリング K432S304		授業科目名(科目の英文名) イノベーションの経済学(Economics of Innovation)					区分・【新主題】/(分野) 社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		授業形式 対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	2,3,4	経済学部	前期	火3	氏名 田村哲也 下田 憲雄 E-mail 田村：ttamura@oita-u.ac.jp・下田 nshimod@oita-u.ac.jp 内線 田村 7706・下田												
授業の概要		シュンペーター以来、経済学におけるイノベーションは、経済の成長、経済発展や生産との関係で発展してきたが、制度的要因、企業の知的財産、ライセンスといった多岐の分野にわたっている。新しい技術の普及には様々な制度的要因が関わるが、中でも所有権の設定の重要性について、歴史上の技術革新の事例と突き合わせながら検討する。またイノベーションと直接関連のある知的財産制度及び競争政策について、経済学の視点から解説する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		経済学におけるイノベーションは、多様な形態で発展していること、またその重要性を理解することを目標とする。						○											
目標2																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		はじめに・・・経済学におけるイノベーションの役割																	
2		イノベーションとマクロ経済																	
3		生産関数とイノベーション																	
4		生産要素からみたイノベーション																	
5		科学技術の変化と経済発展																	
6		情報技術の進化と経済																	
7		イノベーションと市場の創出・進化																	
8		まとめ1 小テスト1																	
9		取引コストと所有権制度																	
10		第一次経済革命と生活様式の変化																	
11		生存競争がもたらすコストへの影響																	
12		産業革命の起点																	
13		プロト工業化と生産機構の変化																	
14		技術の波及プロセス																	
15		まとめ2 小テスト2																	
ラーニング目標		A:知識の定着・確認		○		2回の小テストを実施し、理解度が深まることを期待する。					工夫その他の		Moodleを活用した資料の提示、レポート提出を通じて学生の理解を確認する						
		B:意見の表現・交換		○															
		C:応用志向																	
		D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修		Moodleにアップされる資料を使つての予習（30時間）															
		事後学修		講義内容の復習，課題等の提出（15時間）															
教科書		特に指定しない。 講義に関する資料を適宜moodleにアップすることがある。																	
参考書		・W. ブライアン・アーサー『テクノロジーとイノベーション』みすず書房，2011年 ・後藤見，長岡貞男（編）『知的財産制度とイノベーション』東京大学出版会，2003年 ・ダグラス・C・ノース『経済史の構造と変化』日経BP社，2013年。ISBN978-4822249441																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合		目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	2回の小テスト					100%		○											
注意事項		公欠で小テストを受験できない場合は追試等を実施する。																	
備考																			
リンク																			
		URL																	

ナンバリング K432S304		授業科目名(科目の英文名) イノベーションの経済学(Economics of Innovation)					区分・【新主題】/ (分野) 主専門科目 学科基盤科目		授業形式 対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択		2	2,3,4	経済学部	前期	火3	氏名 田村哲也 下田 憲雄										
							E-mail 田村: ttamura@oita-u.ac.jp・下田 nshimod@oita-u.ac.jp 内線 田村 7706・下田										
授業の概要	シュンペーター以来、経済学におけるイノベーションは、経済の成長、経済発展や生産との関係で発展してきたが、制度的要因、企業の知的財産、ライセンスといった多岐の分野にわたっている。新しい技術の普及には様々な制度的要因が関わるが、中でも所有権の設定の重要性について、歴史上の技術革新の事例と突き合わせながら検討する。またイノベーションと直接関連のある知的財産制度及び競争政策について、経済学の視点から解説する。																
具体的な到達目標																	
目標1	経済学におけるイノベーションは、多様な形態で発展していること、またその重要性を理解することを目標とする。							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	はじめに・・・経済学におけるイノベーションの役割																
2	イノベーションとマクロ経済																
3	生産関数とイノベーション																
4	生産要素からみたイノベーション																
5	科学技術の変化と経済発展																
6	情報技術の進化と経済																
7	イノベーションと市場の創出・進化																
8	まとめ1 小テスト1																
9	取引コストと所有権制度																
10	第一次経済革命と生活様式の変化																
11	生存競争がもたらすコストへの影響																
12	産業革命の起点																
13	プロト工業化と生産機構の変化																
14	技術の波及プロセス																
15	まとめ2 小テスト2																
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	2回の小テストを実施し、理解度が深まることを期待する。				工夫その他の	Moodleを活用した資料の提示、レポート提出を通じて学生の理解を確認する									
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	Moodleにアップされる資料を使つての予習 (30時間)															
	事後学修	講義内容の復習、課題等の提出 (15時間)															
教科書	特に指定しない。 講義に関する資料を適宜moodleにアップすることがある。																
参考書	・W. ブライアン・アーサー 『テクノロジーとイノベーション』 みすず書房, 2011年 ・後藤見, 長岡貞男 (編) 『知的財産制度とイノベーション』 東京大学出版会, 2003年 ・ダグラス・C・ノース 『経済史の構造と変化』 日経BP社, 2013年。ISBN978-4822249441																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	2回の小テスト		100%	○													
注意事項	公欠で小テストを受験できない場合は追試等を実施する。																
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング K432S304		授業科目名(科目の英文名) イノベーションの経済学(Economics of Innovation)					区分・【新主題】/(分野) 経済学科 経済学科		授業形式 対面												
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択		2	2,3,4	経済学部	前期	火3	氏名 田村哲也 下田 憲雄														
							E-mail 田村：ttamura@oita-u.ac.jp・下田 nshimod@oita-u.ac.jp 内線 田村 7706・下田														
授業の概要	シュンペーター以来、経済学におけるイノベーションは、経済の成長、経済発展や生産との関係で発展してきたが、制度的要因、企業の知的財産、ライセンスといった多岐の分野にわたっている。新しい技術の普及には様々な制度的要因が関わるが、中でも所有権の設定の重要性について、歴史上の技術革新の事例と突き合わせながら検討する。またイノベーションと直接関連のある知的財産制度及び競争政策について、経済学の視点から解説する。																				
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済学におけるイノベーションは、多様な形態で発展していること、またその重要性を理解することを目標とする。							○													
目標2																					
目標3																					
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1		はじめに・・・経済学におけるイノベーションの役割																			
2		イノベーションとマクロ経済																			
3		生産関数とイノベーション																			
4		生産要素からみたイノベーション																			
5		科学技術の変化と経済発展																			
6		情報技術の進化と経済																			
7		イノベーションと市場の創出・進化																			
8		まとめ1 小テスト1																			
9		取引コストと所有権制度																			
10		第一次経済革命と生活様式の変化																			
11		生存競争がもたらすコストへの影響																			
12		産業革命の起点																			
13		プロト工業化と生産機構の変化																			
14		技術の波及プロセス																			
15		まとめ2 小テスト2																			
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	2回の小テストを実施し、理解度が深まることを期待する。					工夫その他の	Moodleを活用した資料の提示、レポート提出を通じて学生の理解を確認する												
	B:意見の表現・交換	○																			
	C:応用志向																				
	D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安	準備	Moodleにアップされる資料を使つての予習(30時間)																			
	事後	講義内容の復習、課題等の提出(15時間)																			
教科書	特に指定しない。 講義に関する資料を適宜moodleにアップすることがある。																				
参考書	・W. ブライアン・アーサー『テクノロジーとイノベーション』みすず書房、2011年 ・後藤見, 長岡貞男(編)『知的財産制度とイノベーション』東京大学出版会、2003年 ・ダグラス・C・ノース『経済史の構造と変化』日経BP社、2013年。ISBN978-4822249441																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	2回の小テスト		100%	○																	
注意事項	公欠で小テストを受験できない場合は追試等を実施する。																				
備考																					
リンク																					
	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式													
		イノベーション学説史(History of Innovation Economics)					経済学科 経済学科		対面													
K442S409																						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																
選択	2	2,3,4	経	後期	金1	氏名 田村 哲也																
						E-mail ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7706																
授業の概要	こんにちの私たちは、さまざまな局面で革新的（イノベティヴ）であることを求められています。実際に私たちの日常には、さまざまな革新的な技術が溢れており、その意味で、現代を生きる私たちにとって「イノベーション」はありふれた現象であるといえるでしょう。この授業では、イノベーションという現象を経済学がどのように受容してきた（あるいは無視してきた）のかを、歴史的な観点から説明していきます。																					
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	誰の、どのような行為がイノベーションと呼ばれるのかを学ぶ。																					
目標2	イノベーションを経済学がどのように捉え、扱ってきたのかを整理する。																					
目標3																						
目標4																						
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1	ガイダンス																					
2	イノベーション概念について																					
3	イノベーションにかかわる主体																					
4	企業家概念の起源																					
5	フランス経済思想における企業家																					
6	イギリス古典派経済学における企業家																					
7	新古典派経済学の出現																					
8	完全競争市場における経営の役割																					
9	シュムペーターの体系																					
10	イノベーションと景気循環																					
11	企業家のビジョンと均衡																					
12	市場経済の動態的性格																					
13	イノベーションと雇用の創出・喪失																					
14	イノベーションの政策																					
15	まとめ																					
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	毎回の授業終了後に、Moodle LMS上での「授業の事後課題」の提出を義務づける。その結果を踏まえ、必要と思われる場合には次回の授業の冒頭で取り上げ、補足的な説明を行います。					工夫その他の	Moodle LMSを活用します。												
	B:意見の表現・交換		○																			
	C:応用志向																					
	D:知識の活用・創造		○																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	配布資料を踏まえての予習 (15h)																				
	事後学修	授業の事後課題への回答 (30h)																				
教科書	教科書は指定せず、配布資料を用います。																					
参考書	シュムペーター『経済発展の理論 上・下』岩波文庫、1977年。ISBN 978-4003414712/978-4003414729 I. M. カーズナー『企業家と市場とはなにか』日本経済評論社、2001年。ISBN 978-4818813007																					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	期末試験					70%																
	授業後の事後課題提出					30%																
注意事項																						
備考																						
リンク																						
	URL																					

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		イノベーション学説史(History of Innovation Economics)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面										
K442S409																			
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	2,3,4	経	後期	金1	氏名 田村 哲也												
							E-mail ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7706												
授業の概要	こんにちの私たちは、さまざまな局面で革新的（イノベティヴ）であることを求められています。実際に私たちの日常には、さまざまな革新的な技術が溢れており、その意味で、現代を生きる私たちにとって「イノベーション」はありふれた現象であるといえるでしょう。この授業では、イノベーションという現象を経済学がどのように受容してきた（あるいは無視してきた）のかを、歴史的な観点から説明していきます。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	誰の、どのような行為がイノベーションと呼ばれるのかを学ぶ。																		
目標2	イノベーションを経済学がどのように捉え、扱ってきたのかを整理する。																		
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		ガイダンス																	
2		イノベーション概念について																	
3		イノベーションにかかわる主体																	
4		企業家概念の起源																	
5		フランス経済思想における企業家																	
6		イギリス古典派経済学における企業家																	
7		新古典派経済学の出現																	
8		完全競争市場における経営の役割																	
9		シュムペーターの体系																	
10		イノベーションと景気循環																	
11		企業家のビジョンと均衡																	
12		市場経済の動態的性格																	
13		イノベーションと雇用の創出・喪失																	
14		イノベーションの政策																	
15		まとめ																	
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		☐		毎回の授業終了後に、Moodle LMS上での「授業の事後課題」の提出を義務づける。その結果を踏まえ、必要と思われる場合には次回の授業の冒頭で取り上げ、補足的な説明を行います。					工夫その他の	Moodle LMSを活用します。								
	B:意見の表現・交換		☐																
	C:応用志向		☐																
	D:知識の活用・創造		☐																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配布資料を踏まえての予習（15h）																	
	事後	授業の事後課題への回答（30h）																	
教科書	教科書は指定せず、配布資料を用います。																		
参考書	シュムペーター『経済発展の理論 上・下』岩波文庫、1977年。ISBN 978-4003414712/978-4003414729																		
	I. M. カーズナー『企業家と市場とはなにか』日本経済評論社、2001年。ISBN 978-4818813007																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験					70%													
	授業後の事後課題提出					30%													
注意事項																			
備考																			
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式														
		イノベーション学説史(History of Innovation Economics)				主専門科目 その他		対面														
K442S409																						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択		2	2,3,4	経	後期	金1	氏名 田村 哲也															
							E-mail ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7706															
授業の概要	こんにちの私たちは、さまざまな局面で革新的（イノベティヴ）であることを求められています。実際に私たちの日常には、さまざまな革新的な技術が溢れており、その意味で、現代を生きる私たちにとって「イノベーション」はありふれた現象であるといえるでしょう。この授業では、イノベーションという現象を経済学がどのように受容してきた（あるいは無視してきた）のかを、歴史的な観点から説明していきます。																					
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	誰の、どのような行為がイノベーションと呼ばれるのかを学ぶ。																					
目標2	イノベーションを経済学がどのように捉え、扱ってきたのかを整理する。																					
目標3																						
目標4																						
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1		ガイダンス																				
2		イノベーション概念について																				
3		イノベーションにかかわる主体																				
4		企業家概念の起源																				
5		フランス経済思想における企業家																				
6		イギリス古典派経済学における企業家																				
7		新古典派経済学の出現																				
8		完全競争市場における経営の役割																				
9		シュムペーターの体系																				
10		イノベーションと景気循環																				
11		企業家のビジョンと均衡																				
12		市場経済の動態的性格																				
13		イノベーションと雇用の創出・喪失																				
14		イノベーションの政策																				
15		まとめ																				
ラーニング 目標	A:知識の定着・確認		☐	毎回の授業終了後に、Moodle LMS上での「授業の事後課題」の提出を義務づける。その結果を踏まえ、必要と思われる場合には次回の授業の冒頭で取り上げ、補足的な説明を行います。					工夫 その他	Moodle LMSを活用します。												
	B:意見の表現・交換		☐																			
	C:応用志向		☐																			
	D:知識の活用・創造		☐																			
時間外学習 の内容と時間の目安	準備 学修	配布資料を踏まえての予習 (15h)																				
	事後 学修	授業の事後課題への回答 (30h)																				
教科書		教科書は指定せず、配布資料を用います。																				
参考書		シュムペーター『経済発展の理論 上・下』岩波文庫、1977年。ISBN 978-4003414712/978-4003414729 I. M. カーズナー『企業家と市場とはなにか』日本経済評論社、2001年。ISBN 978-4818813007																				
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法						割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	期末試験						70%															
	授業後の事後課題提出						30%															
注意事項																						
備考																						
リンク																						
	URL																					

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式												
K442S411		制度の経済学Ⅰ(Institutional AnalysisⅠ)				社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面												
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択		2	2,3,4		前期	金2	氏名 田村 哲也 E-mail ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7706													
授業の概要		一般に経済学は、合理的な個人を想定し、そうした個人間でおこなわれる取引を分析します。しかし、わたしたちは数多くの「制度」(ルール・予想・規範・組織など)に囲まれており、その影響を常に受けながら意思決定をし、経済活動をおこなっています。この授業のねらいは、そうした「制度」という視点から経済を分析する手法を学ぶことにあります。そのために必要な概念や専門知識について学びながら、日本経済、世界経済の動向を解説していきます。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1		私たちの経済活動がどのような制度的影響を受けたものであるのかを把握する。																		
目標2		制度という視点から、私たちが生きる資本主義経済についての理解を深める。																		
目標3		制度について学ぶことで、現代経済の問題を考えられるようになる。																		
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1		ガイダンス																		
2		制度とは																		
3		制度とホモ・エコノミクス(1):諸個人の利潤追求行為																		
4		制度とホモ・エコノミクス(2):諸個人の他者に対する同感																		
5		制度としての市場																		
6		組織としての企業																		
7		労働分配率の決定																		
8		グローバリゼーション下の企業行動																		
9		国際収支の変化とグローバルな不均衡																		
10		資本主義の多様性と制度的比較優位(1):経済調整の多様性																		
11		資本主義の多様性と制度的比較優位(2):制度的補完性と制度的比較優位																		
12		格差と制度(1):格差の概観とその倫理・哲学的次元																		
13		格差と制度(2):格差をどのように解消するか																		
14		政治的なものと経済的なもの																		
15		まとめ																		
ラーニング目標		A:知識の定着・確認		毎回の授業終了後に、Moodle LMS上での「授業の事後課題」の提出を義務づける。その結果を踏まえ、必要と思われる場合には次回の授業の冒頭で取り上げ、補足的な説明を行います。				工夫その他の		Moodle LMSを活用します。										
準備学修		配布資料を踏まえての予習(15h)																		
事後学修		授業の事後課題への回答(30h)																		
教科書		教科書は指定せず、配布資料を用います。																		
参考書		・アブナー・グライフ『比較歴史制度分析 上・下』ちくま学芸文庫、2021年。ISBN 978-4480510112/978-4480510129年。ISBN ・藤田真哉・北川亘太・宇仁宏幸『現代制度経済学講義』ナカニシヤ出版、2023 978-4779517082																		
成績評価の方法及び評価割合		評価方法				割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
		期末試験				70%														
		授業の事後課題提出				30%														
注意事項																				
備考																				
リンク																				
		URL																		